

日本パーソナリティ心理学会第27回大会  
経常的研究交流委員会企画シンポジウム  
加害者臨床とパーソナリティ研究の対話  
—ダークトリアドを巡って—

# ダークトリアドの メカニズム

東京大学大学院教育学研究科附属  
学校教育高度化・効果検証センター  
喜入 暁 (s.kiire0518@gmail.com)

概要：

## ダークトライアドとパートナー暴力

- パートナー暴力に着目し、ダークトライアドの進化的基盤とメカニズムを考える。

Personality and Individual Differences xxx (xxxx) xxx–xxx



ELSEVIER

Contents lists available at ScienceDirect

### Personality and Individual Differences

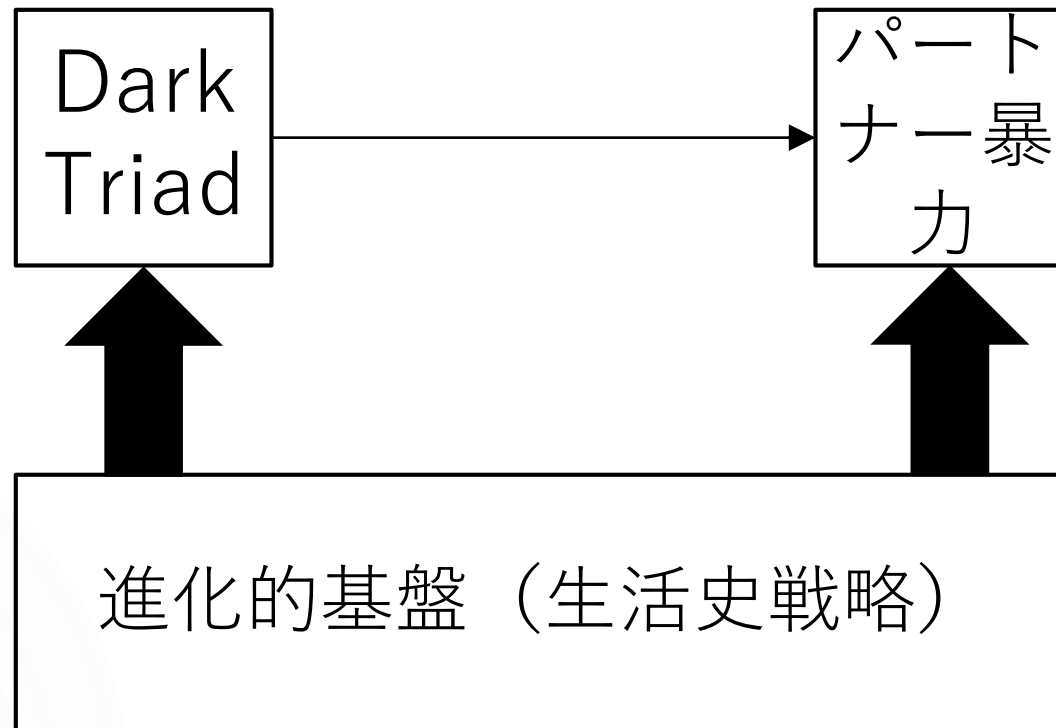
journal homepage: [www.elsevier.com/locate/paid](http://www.elsevier.com/locate/paid)



A “fast” life history strategy affects intimate partner violence through the Dark Triad and mate retention behavior

Satoru Kiire

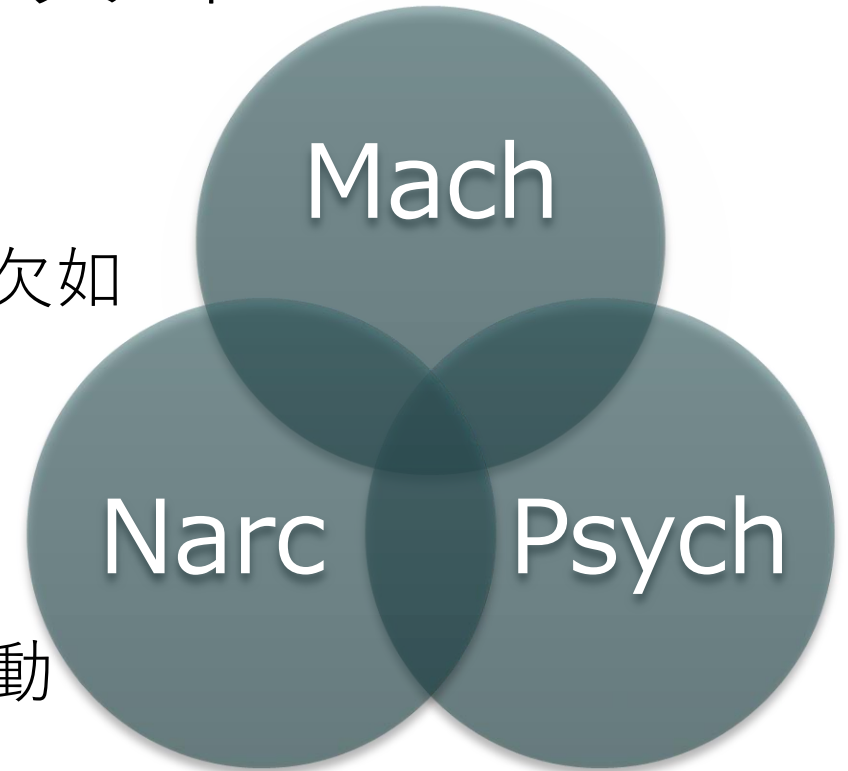
Center for Advanced School Education and Evidence-based Research, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan



- Dark Triadはパートナー暴力のリスクを網羅
- 進化的基盤を考えることで、包括的な説明ができるかも。
  - メカニズムに着目した統合的アプローチ

# 問題と目的：Dark Triadと行動・特性との関連

- 社会的に望ましくないとされるパーソナリティ
  - 冷淡さと他者操作性を核とする
  - 自己中心性
    - 冷淡さ、他者操作性、非協調性、道徳性欠如
  - 反社会性
    - 攻撃性、いじめ、虚言、不正、薬物使用
  - 衝動性
    - ギャンブル・危険な性行動などの危険行動
  - 短期的配偶
    - ワンナイトラブ、不倫、複数パートナー
- ※これらはあくまで現象に過ぎない。



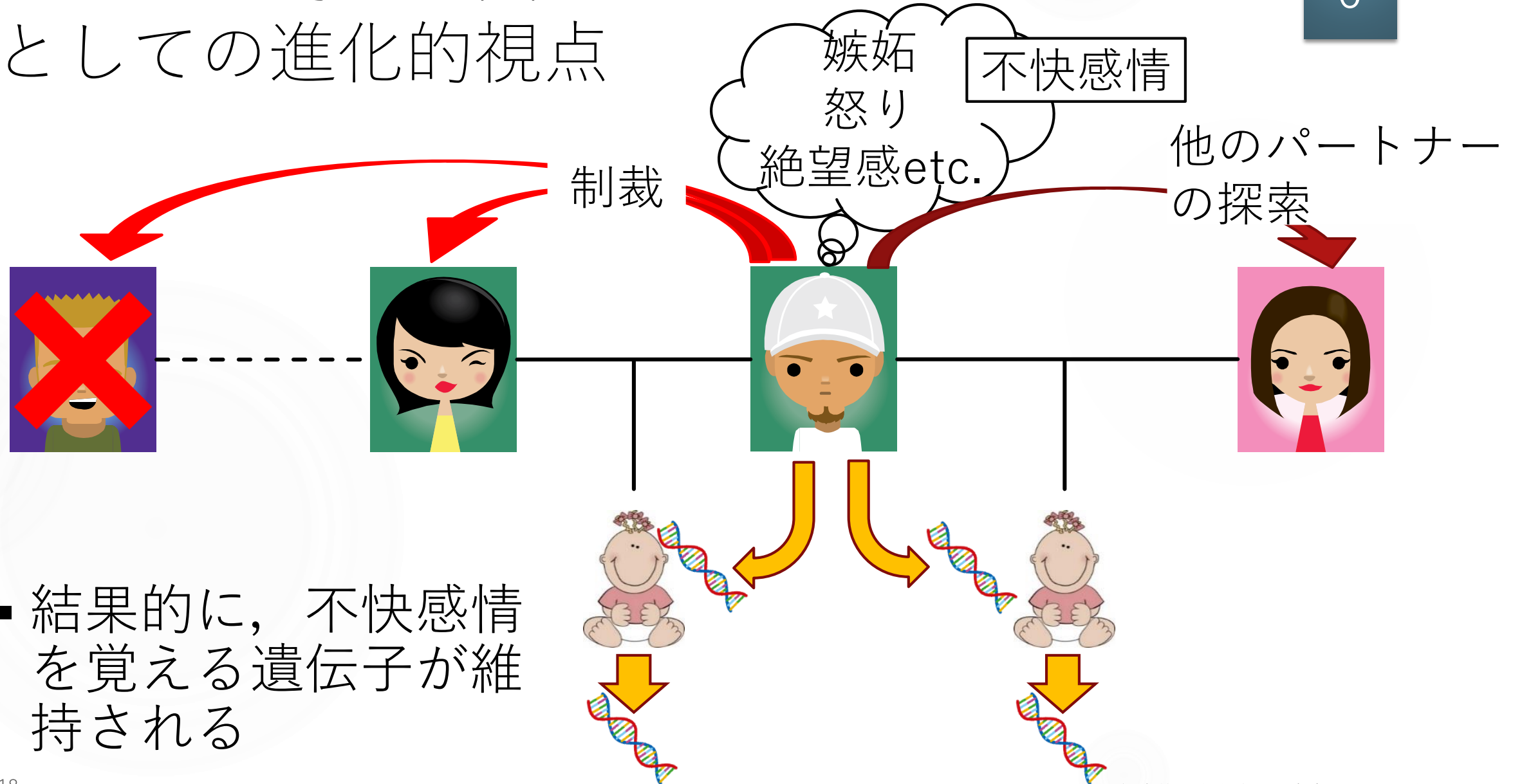
# 問題と目的：パートナー暴力のリスク要因

5

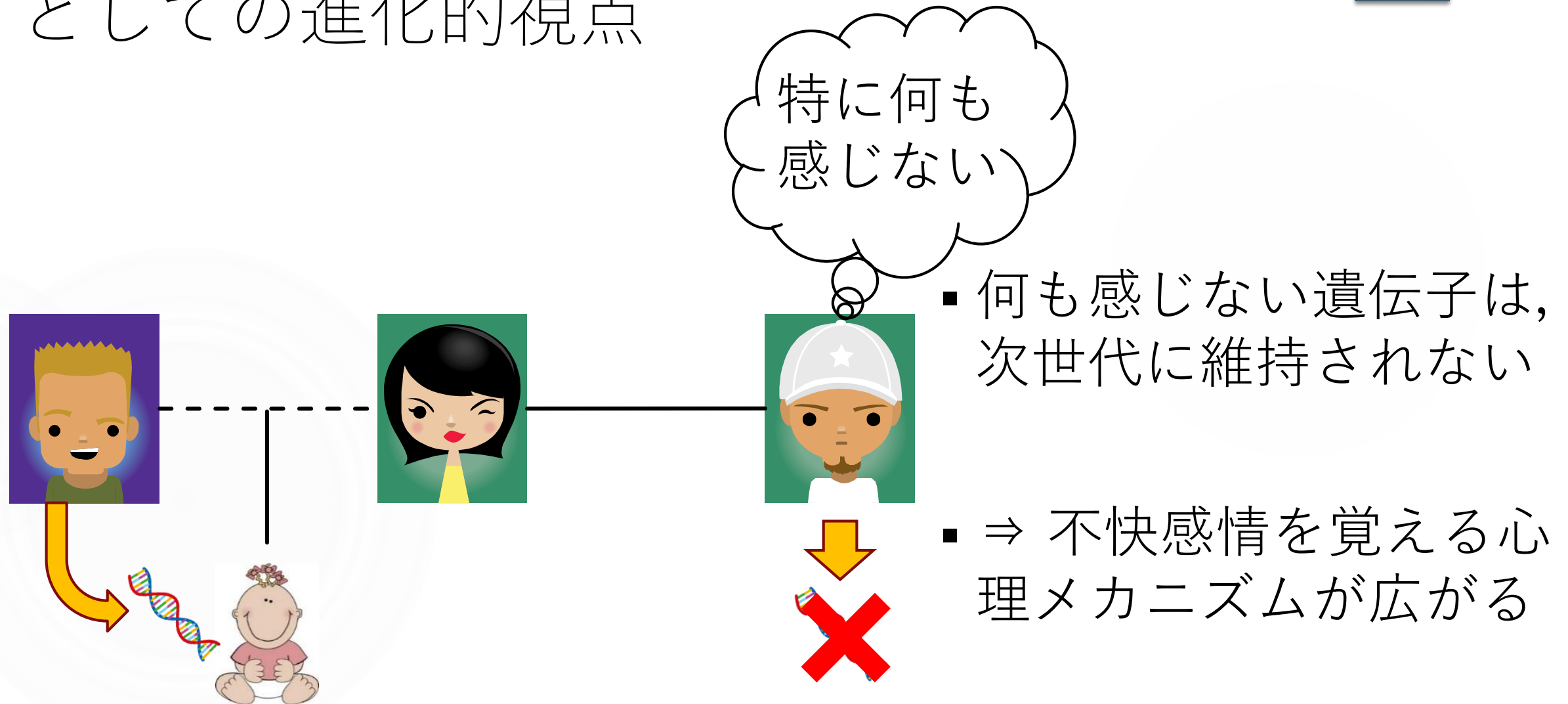
加害リスクファクターカテゴリ	例
メンタルヘルス	うつ，不安
攻撃的思考/認知	交際関係での暴力受容
若い時の暴力	ケンカ，全般的な反社会行動
薬物使用	アルコール，マリファナ
危険を伴う性行動	8年生で性経験あり，セックスパートナーが多い
恋愛/友人関係の質が悪い	敵意的なカップル関係，反社会的友人との関与
家族の質が悪い	両親の対立，子どもの頃の身体的虐待
個人の属性	子供の性別，人種
暴力的なメディア	-

- Dark Triadはこれらの特徴を網羅かつパートナー暴力を予測
- ※ただし現象に過ぎない

# 問題と目的：原因へのアプローチの1つ としての進化的視点

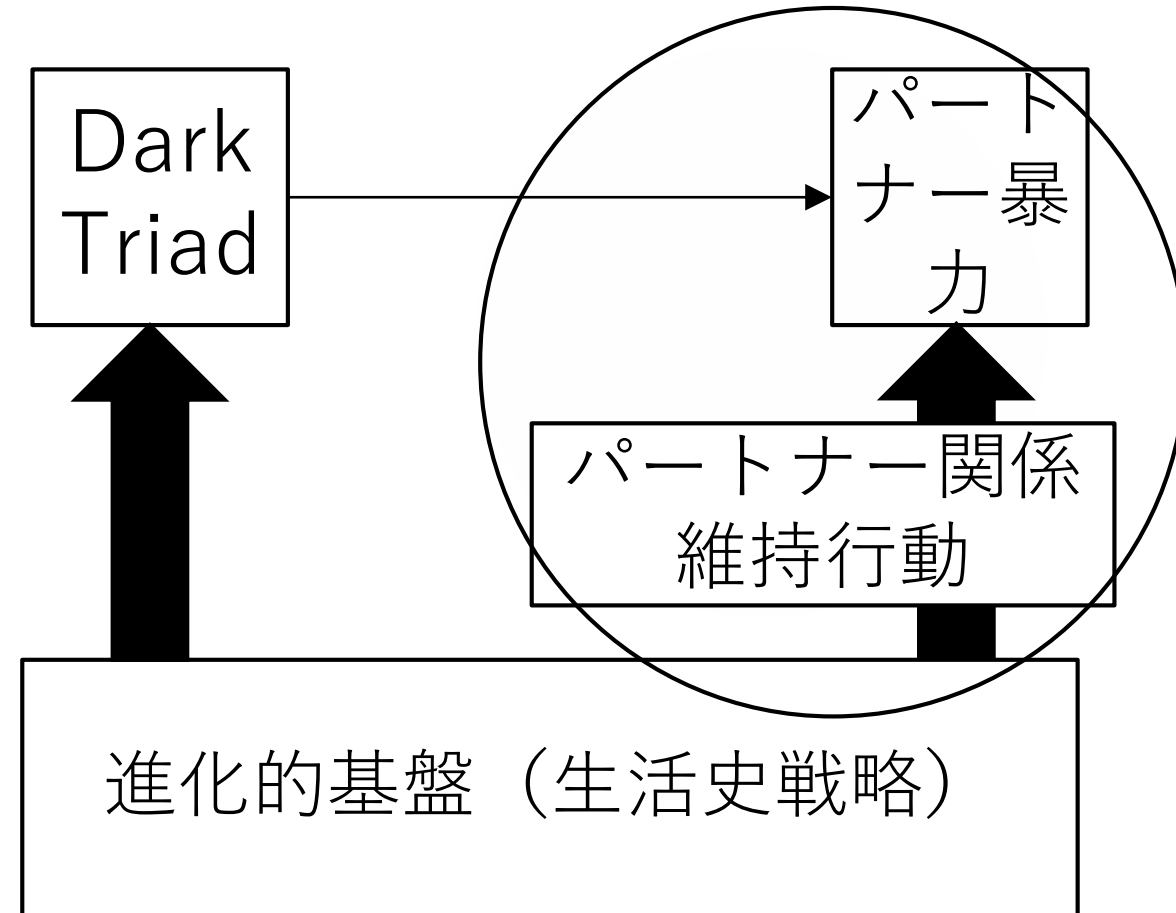


# 問題と目的：原因へのアプローチの1つ としての進化的視点



# 問題と目的：パートナー暴力の進化的基盤

- パートナー関係維持行動の一つ
- パートナー関係が維持できないと、
  - 父性不確実性（男性）
  - リソース欠乏（女性）
  - 1からパートナー探し
    - 時間もリソースも無駄
- さまざまな方略





# 問題と目的：パートナー関係維持行動

## ■大きく分けると、



### ■コストを与える

- ダメなやつ認識 → 次のパートナーを探すコストを高く認識

### ■利益を与える

- 関係満足感を高める → 離れようとする可能性を低める。



- ❖ パートナーの監視
  - ❖ パートナーへの否定的関わり
  - ❖ ライバルへの否定的関わり
- e.g., 束縛, 脅迫, ライバルへの攻撃

- ❖ 公への所有のサイン
  - ❖ パートナーへの肯定的関わり
- e.g., プレゼント, コミットメント

# 問題と目的：パートナー関係維持行動

## ■ 大きく分けると、



### ■ コストを与える

- ダメなやつ認識 → 次のパートナーを探すコストを高く認識



### ■ 利益を与える

- 関係満足感を高める → 離れようとする可能性を低める。

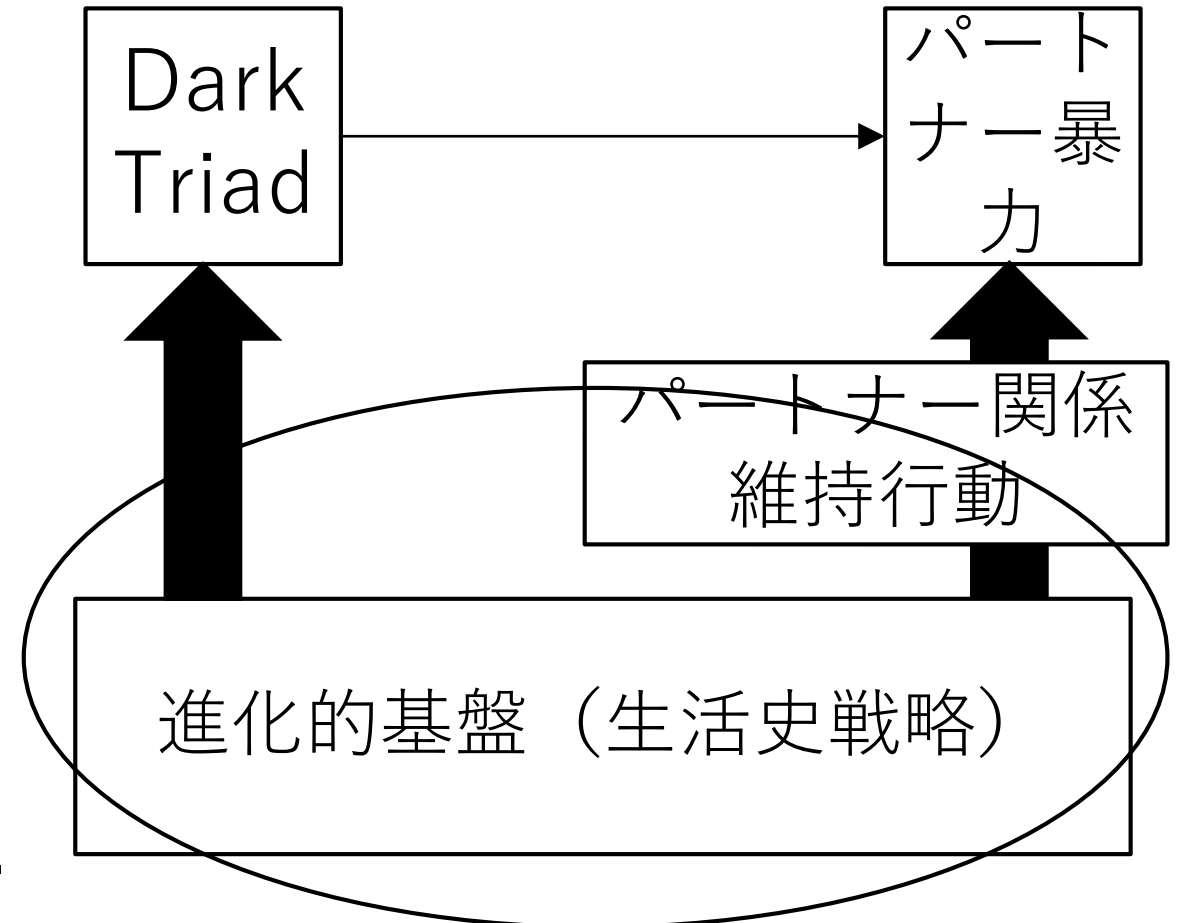


## ■ パートナー暴力はコストを与える系の最たるもの。

- ただし、選択には個人差がある（かつ、稀）。
- 個人差を進化の枠組みでとらえられるか？

# 問題と目的：個人差の進化的基盤としての生活史戦略

- 遺伝と幼少期の環境によって形成される
  - 早い生活史戦略から遅い生活史戦略までの1次元
- 戦略の違いは様々な状況に関わる
  - 友人関係，親子関係，恋愛関係，計画性，危険行動etc.

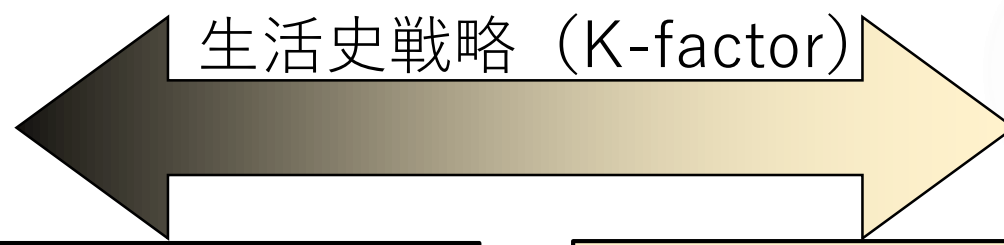


※戦略：目的を持つ意図的な行動ではなく，単に行動パターンのセットを指す。

❖ 早い生活史戦略  
(r戦略)

生活史戦略 (K-factor)

❖ 遅い生活史戦略  
(K戦略)



環境が不安定、将来の見通し×

- 他者をだましてでも生き残る
- 子どもは勝手に生き残ってくれ  
(生殖 > 養育; 質より量)

- パートナー関係崩壊のリスクがあっても一時的に強力な支配が必要
  - → 過剰なパートナー関係維持行動
  - → パートナー暴力を選択する可能性

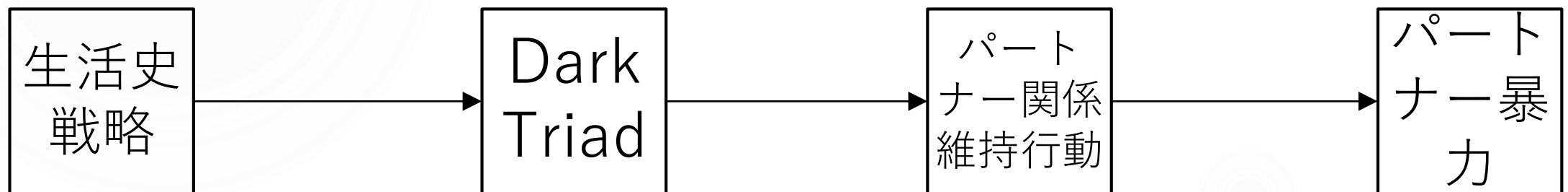
環境が安定的、将来の見通し○

- 他者と協力
- 少数の子どもの大事に育てる  
(生殖 < 養育; 量より質)

- 長期的なパートナー関係が必要なのでリスクの高い方略を避ける
  - → 過剰なパートナー関係維持行動を避ける
  - → 利益を与える系のパートナー関係維持行動

# 問題と目的：まとめと仮説

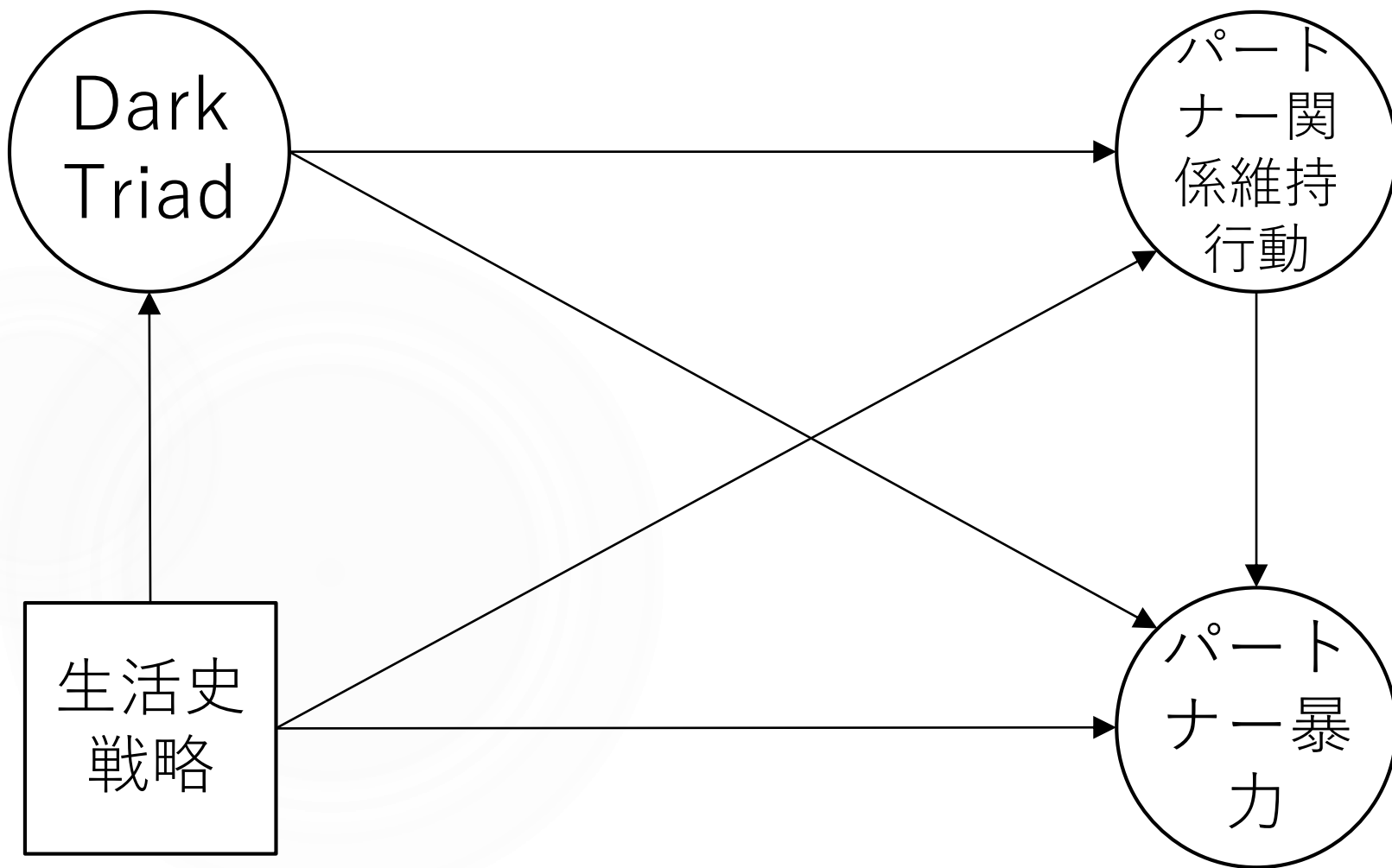
- 進化的適応に基づく個人差（生活史戦略）は、パーソナリティとしてのDark Triadに反映される。
- 「Dark Triad → パートナー暴力」の根底には生活史戦略がある。
- 早い生活史戦略は、短期配偶なので、パートナー関係が一時的に維持できればよい。
  - → 過剰なパートナー関係維持行動



- 参加者
  - 大学生380名 ( $M_{\text{age}} = 18.9$ ,  $SD = 1.20$ , 212女性)
- 測定
  - Mini-K-J (生活史戦略の測定、20項目、7件法、平均得点)
  - SD3 (Dark Triadの測定、27項目、7件法、平均得点)
  - MRI-J (パートナー関係維持行動の測定、38項目、4件法、平均得点)
  - パートナー暴力尺度 (パートナー暴力の測定、21項目、5件法)



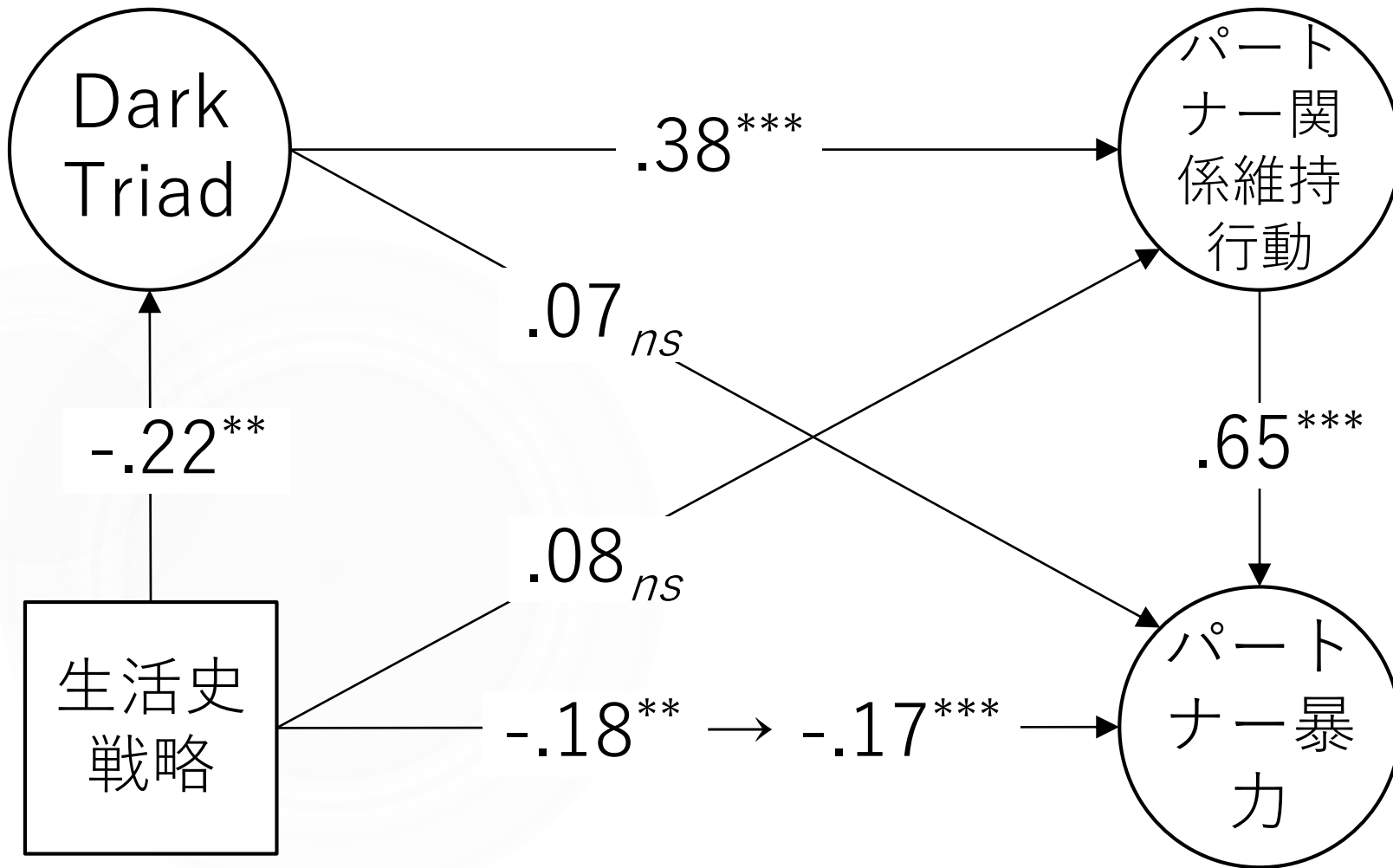
- 検証したい仮説
- ただし、生活史戦略以外は下位側面がある。
- → それぞれの下位側面（観測変数・平均得点）から潜在変数を抽出



- 年齢・性別は統制
- ブートストラップ（5000回）で間接効果の検証



# 結果



Fit indices:

$\chi^2(123) = 495.63, p < .001$

CFI = .877

TLI = .849

RMSEA = .089, 90%CI = [.081, .098]

SRMR = .059

$b_{\text{indirect}} = -0.03, 95\%CI = [-0.07, -0.01]$

- 仮説支持

## 考察：知見

- Dark Triadとパートナー暴力の根底には進化的基盤として生活史戦略がある。
- → Dark Triadは進化的適応機能を備える可能性
- ※価値判断の話ではない。
- 現象だけでなくその成り立ちを捉えることでより理解が深まる。
  - Dark Triadだからパートナー暴力をする、は現象。
  - Dark Triadとパートナー暴力という現象の原因へ。

- Dark Triadの各側面は必ずしも早い生活史戦略や短期的配偶をするわけではない可能性の指摘も。
  - 本研究は、より広くとらえればDark Triadの核は早い生活史戦略、という仮説に基づき実施。
- 性別の効果が不明瞭
  - 生活史戦略、Dark Triadには性差がある ⇔ パートナー暴力に性差はほぼない。

# まとめと今後の展望

- Dark Triadや関連する問題行動は進化的観点から統合的に説明できる可能性。
  - → 客観的な視点からメカニズムを捉える必要性
- メカニズムを理解したうえで、臨床的介入アプローチの視点を広げていく必要性。
- ご意見などございましたら、
  - 喜入暁（きいれさとる）， [s.kiire0518@gmail.com](mailto:s.kiire0518@gmail.com)
  - までお願いいたします。